

第3回 リニア・瑞浪恵那道路・ 新丸山ダム特別委員会

令和6年4月17日(水)	開会 15時30分
5階 第1委員会室	閉会 16時18分

午後3時30分 開会

○委員長(辻 正之君)

皆様、こんにちは。

突然の委員会で、大変申し訳ありませんでしたけれども、今日はスケジュールについての御報告をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、ただ今から、令和6年第3回リニア・瑞浪恵那道路・新丸山ダム特別委員会を開会いたします。

それでは、議題に入ります。

○委員長(辻 正之君)

1 委員会活動についてを議題といたします。

それでは前回、スケジュールをお任せいただきましたので、ここで御報告させていただきたいと思っております。

まずこのタブレットのほうに入っておりますけれども、そちらをまず見ていただきたいと思います。ですが、よろしいでしょうか。タブレットのほう見れましたかね。その中に、令和6年リニア・瑞浪恵那道路・新丸山ダム特別委員会活動予定ということで入っております。

この中で、まず委員会活動の目的としては、瑞浪恵那道路、新丸山ダム、リニア中央新幹線各工事の早期整備がされるよう、進捗状況を確認する、ということで進めてまいりたいと思っております。

まず最初に、リニア残土処分場についての進捗状況というのを、7月中に執り行っていきたいと思っております。この中でまず一つ目は、土岐町発生土仮置場の環境調査及び影響検討結果について、というところで、いろいろありますけれども、リニア工事が出る重金属などを含む要対策土の取扱いについてとか、あと二酸化窒素、浮遊粒子状物質ですね、粉じん等、騒音・振動、生態系動物、温室効果ガスといったものについて、それから発生土置場の水質土壌汚染とか景観、そして調査の基本的な手法、それから調査地区、調査地点などをいろいろと進捗状況をお聞きしたいというふうに思います。

それから二つ目の、発生土運搬の進捗状況についてですが、これは日吉トンネルから出るいろいろな、土砂等のダンプの1日当たりどのぐらい出されているかなど、そういうようなことを調査したいというふうに思っております。それからあと、工事の工程というところですね。

それから三つ目に、発生土置場の状況の説明ということで、仮置き場の要対策土と保管状況とそれ

からヒ素・フッ素の量と取扱いの状況というところをお聞きしたいなというふうに思っています。

それから4番目ですけれども、運搬する発生土の（溶出量試験等）確認状況ということで、これは検査されてみえますので、その管理基準値というものに対してどのような状況かということも調べたいというふうに思っております。

それから5番目には、運搬経路の安全対策ですね。日吉トンネル（南垣外校区）の非常口の状況というようなことについてのまず進捗状況というものをお聞きしたいというふうに思っておりますので、これを7月中に行っていきたいというふうに思います。

それからもう一つの道の駅についてですけれども、この前の委員会での話でありましたので、瑞浪恵那道路とそれに接続する部分ということでしたので、ここに図面が入っておりますけれども、道の駅というところ、タブレットに入っていますので、PDFですね。国土交通省のほうで、道の駅・瑞浪恵那道路に附随してつくっていただける部分というのがありまして、その公共施設というのが休憩施設とそれからトイレ、情報提供施設というものが入ったものが施設としてつくられるということになっております。

そのほかにもこの駐車場というものがありますけれども、こういったものがもう既につくられているところがありまして、それが道の駅とよはしの情報提供施設ということになっております。それでここでは情報提供機能として、渋滞とか工事の道路情報、それから地域の観光情報というものがそこで提供されるようになっております。

それから休憩施設としては、室内にトイレ、休憩スペースというものがつくられています。そのほか、清潔感ある授乳室と、お子様連れの方が利用できるような場所というのが用意されているということです。

それから三つ目には、広々とした駐車場、大型トラックなどの停車するスペースと、それからあとほかにもサイクルピット、それから休憩や自転車ですね、そういった自転車のメンテナンスを行うような場所というのが設置されているというようなことが既につくられている場所がありましたので、一度ここを視察をしてみたいなというふうに思っておりますので、スケジュール的にはこのような形で、これは日帰りになりますけれども、行けたらどうかということで、まだ相手があることですので、ちょっと対応がどのようになっていくか分かりませんが、これを前半、10月にもつれ込まないように、7月・8月のあたりで計画を立てていきたいなというふうに思っております。

それで議長諮問にもありましたような内容でいきますと、こういったところを一度視察しまして、視察とそれから進捗状況につきまして、課題とかあと提案とか要望というものを、御意見があればアンケートみたいな感じでちょっと記入していただけるとありがたいなというふうに思いますので、何か様式みたいなものを作りまして、そこにちょっと記入、進捗状況を説明を受けた後、それからこの視察の後をお願いしたいと思います。

それでこれは、前回からも勉強会というものを形式でやっておりましたので、リニア特別委員会、委員だけではなくてほかの議員の方々にも参加をしていただいて、進捗状況とそれから視察の

ほうも進めていきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ちょっと走ってしまいましたけれども、大体そのような形でスケジュールを決めていきたいと思ひますので、お願ひしたいと思ひますが、何か御質問等ありましたらよろしくお願ひします。

大久保委員。

○6番（大久保京子君）

すみません、道の駅ですね、結構今までの議会とか委員会とかでも行きましたかね、視察に行っていて、今、御説明のあった駐車場の部分だとか、トイレ・休憩施設だとか、そういうものはもう十分皆さん御存じなんですよ。道の駅としてはこういうものはつくっていただけますよ、というものは御存じで、それで委員長も、過去、瑞浪市議会でそういうところへ視察に行つて、皆さん勉強してきたことは御存じですね。

○委員長（辻 正之君）

どちらかと言うと、メインでは直売所だとかそういう販売するようなところというのを、どちらかと言うとメインで視察してきた記憶があるわけですがけれども、それで特化してこの場所ですと、道の駅とよはしですね、この場所ですと、そういう専門の総合施設が出来上がつてきていたもので、どうかと思ひますが。

大久保委員。

○6番（大久保京子君）

道の駅ね、瑞浪、釜戸に今ということ今、進めてみえるんですけども、もっとそっちのほうに注力して、瑞浪市全体で、今どういう、計画中のところをもうちょっとこうしたほうが良いんじゃないかとかそういう、そっちのほうの勉強のほうが良いんじゃないかと思ひますけれども、私は、個人的には。

○委員長（辻 正之君）

そうですね、ここの範囲というのが瑞浪恵那道路に附随した接続部分というところで話がありましたので、そこのところをちょっと中心的に勉強というか、見てきたほうがいいのかなど。

○3番（小曾木光佐子君）

良いですか。

○委員長（辻 正之君）

小曾木委員。

○3番（小曾木光佐子君）

道の駅で国交省がつくるのは、駐車場と情報館なんですよ。それ普通のことなんですよ、特別なことじゃないんですよ。だからとよはしは何がすごいと言つたら、災害用の道の駅になつていて、すごく駐車場も大きいし、災害用のトイレがあつたりという、そういうところに特化しているところなので、こちらの道の駅のこういうものがあつたら良い的なことにはつながつてこない施設になると思ひますよ。

道の駅というのはもともと、今これは休憩施設、トイレ、駐車場は国交省がつくと決まってい

ることなんですよ。

○委員長（辻 正之君）

はい。それで一応、国交省のほうの、大分前ですかね、説明がありましたけれども、そのときに駐車場、休憩施設、トイレ、道路情報提供施設ということですが、当然その中に防災機能を有する施設とか、それから非常用電源とか、防災資材倉庫とか、災害対応トイレというのも含まれていると思うんですよ。だからそういうようなものを合わせて、視察できると良いかなというふうに思うんです。

○3番（小曾木光佐子君）

視察をしてどうされたい。

○委員長（辻 正之君）

視察をして、それでその中で出てきた、皆さんの御意見を聞くということですが、課題と提案と要望ですね、こういったものをまとめていきたいなというふうに思っています。

○6番（大久保京子君）

良いですか。ちょっとお聞きすると、このとよはし、個人的にも行かれた議員さんがお見えだと伺っています。

○委員長（辻 正之君）

それは確かにそれぞれの議員さんで行かれているということは聞きましたけれども、委員会として勉強会で、委員だけじゃなくてほかの議員さんも含めて、そういうところを全体で見てもらったほうが良いかなということをお願いしたいと思います。

渡邊委員。

○4番（渡邊康弘君）

そもそも前年度の取決めで、特別委員会では勉強会での視察は行わないという話を協議の中でしたと思います。それでかつ、特別委員会での市外への視察に関しては、委員会のみで行うという話をされています。

それでそういったところで協議して、自分たち、議会改革特別委員会で行った際も委員会のみで視察を行っておりますので、今の委員長が言われていることとかなり違ってきますし、そもそも特別委員会で議長が認めない限りは行けないので、議長さんももうちょっと考えたほうが良いんじゃないかと指摘されていた気がしたんですが。

○委員長（辻 正之君）

今までの新丸山ダムの視察というのがずっと継続して行われていたもので、その流れの予算はあるというふうに聞いておるわけですが、

○4番（渡邊康弘君）

すみません、この設備であれば、この近所の道の駅でも、どこに行っても多分見ることはできると思うんですね。わざわざとよはしに行く必要もないですし、過去の委員会とか、会派あたりでもそうなんですけれども、もう既に大分こういった部分を含めて見られているとは思っているので、これを

やるに当たってそれ以上の付加価値を持ってやれるのであれば、こういうのをやりたいですという提言をしてもらえると思うんですけども、委員会として、これだけを見に行きますというのだと、本当に税金使って遊びに行くとすると言われかねないぐらい、ちょっと問題があるのかなというのが感じられるので。じゃあ近くの道の駅行ってくればいいじゃんと言われかねないところなので、そういうことを、とよはしの道の駅のやつで、しかも委員会以外の勉強会で行うというのは、ちょっと問題があると思います。

○委員長（辻 正之君）

小曾木委員。

○3番（小曾木光佐子君）

私も、この視察は必要ないと思います。

○委員長（辻 正之君）

それでこのところで、課題と提案と要望というところで、この施設をつくるに当たってそういったものを見いだせるような場所があれば、例えばとよはしじゃなくても、県内であっても良いですけれども、そういったところを見てそういう課題・提案・要望というものが。

○3番（小曾木光佐子君）

去年も何かの委員会が、金山かどこかと思うんですけども、道の駅に行ってるでしょう。

そういうのを資料とか見られましたか。今まで皆さんが視察してきた資料を。かなり皆さん勉強していますし。

○委員長（辻 正之君）

行ったときのやつは、覚えはあるんですけども、そのときの見る目的のものが。

○3番（小曾木光佐子君）

見るのは常に全体見ているので。

○委員長（辻 正之君）

常というか、目的が販売所とかそういう。

特徴とかそういうことですね、そういうものを見た覚えがあるんですけども。

○3番（小曾木光佐子君）

それを言うならとよはしだって、ここがメインじゃないもんね、JAの物産売場もあれば。そういうのを売りにしているし、災害時にそこに自衛隊とかの拠点ができるというのを売りにしているところなので、全くこちらの見たいものとは次元が違う道の駅ですよ、これ。そこを見に行くと、委員会として何か提案できるのかなんていうのは、あり得ない話。

委員長がどこかに行きたいと思われるのは分かるけれども、無駄なことはしてほしくない。

○委員長（辻 正之君）

何かこの課題と要望と提案というのが。

○3番（小曾木光佐子君）

それにこれじゃなきゃならない理由がありますか。

○委員長（辻 正之君）

これは瑞浪恵那道路に接続する部分の施設ということで、それに沿ってますけれども。

○3番（小曾木光佐子君）

だから、その道の駅の在り方というのは、委員長が一番分かってないだけだと思いますよ、申し訳ないけれども。先ほど言った附属の施設であるとか、トイレ、駐車場は、国交省がつくるということが決まっていることなので。

○委員長（辻 正之君）

決まっているので、それを。

○3番（小曾木光佐子君）

それをどうするんですか。

○委員長（辻 正之君）

それに対しての課題と提案というのを絞って、委員会として絞ったらどうかということなんですか。

○6番（大久保京子君）

例えば見に行って、あ、こんな立派なトイレだと、こういうトイレが瑞浪にも釜戸にも、このようなトイレができたらいいねとか、そういうことですか。

○委員長（辻 正之君）

そういう提案というのも良いと思いますよ。ちょっとそういうものを見てないです。

○3番（小曾木光佐子君）

ほかの方はどう思われるか分からないですけれども、委員長お任せで考えてくださったことなんですけれども、ちょっとそぐわないと、委員会としては。思うんですけれども。

○2番（棚町 潤君）

ちょっと良いですか。そもそも前回の委員会の中で、リニアと地域経済のすみ分けの話もあったと思うんですよ。やはりそれが今どうなっているかというのを御報告いただかないと、僕らとしてもその判断ができないので、それはどのようになっているかというのを、まずは教えていただきたい。

○委員長（辻 正之君）

そうですね、それでその辺の話については、まずリニア瑞浪恵那道路、これに接続する部分と、要は道の駅、瑞浪市がつくる道の駅との接続する部分について、委員会で取り組んでいきたいなというところになったわけですね、話が。

○3番（小曾木光佐子君）

道の駅本体は、経済建設でやると。

○委員長（辻 正之君）

そうなんです、そちらのほうでいろいろと取り組んでいくということですので、リニアで。

○2番（棚町 潤君）

難しいのと、委員長困っておるなというのが分かりますけれども。すごいニッチな部分ですよ、それ。すごいマニアックな部分なんですけれども。

それに対してこれ諮問を見ると、課題を明らかにして、提案・要望など積極的に取り組むという話ですけれども。接続部分の課題って何ですかね。僕は想像ができないんですけれども。

○委員長（辻 正之君）

それでそのところは、ここにもちょっと図が載せてあるんですけれどもね。これは国交省が出しているんですけれども、この市がつくる道の駅の接続部分だと、この黄色の部分は市がつくるので。

○3番（小木曾光佐子君）

それみんな知ってます。

○委員長（辻 正之君）

そこからくっ付いた部分について。

○6番（大久保京子君）

だからそれも言ったじゃないですか。みんな知ってますよって。

○3番（小木曾光佐子君）

釜戸のところも、国交省がつくるのは駐車場と情報館なんです。もう決まってるんですよ、それは。その接続の部分の。

○委員長（辻 正之君）

接続というか、言葉で言うと変ですけれども、その部分をリニアのほうで。三輪田委員。

○委員（三輪田幸泰君）

今、委員長が用意してくれた、この緑色と黄色のことだと思うんですけれども、黄色は経済建設がもむべきであって、緑が特別委員会がやる、これも国のお金なもので、国交省がやるやつです。

だけど、その今おっしゃられたように、防災トイレつくってくれ、防災倉庫つくってくれという提案はできると思う。先進事例として、今、委員長押さえられたとよはしというのも、一つの勉強かなと思うんですけれども。だけど、それ見に行かなあかんのかなという感じが。

これだけの、とよはしはこれだけのスペースがあって、うちはこれだけしかないというので、そのベース割、面積割というものもあるもので、そこら辺が分からんのに、やみくもに、ああええなどというくらいの的に行くというのもどうかと。

それで特別委員会で何でもかんでも、常任委員会とまた立ち位置が違うものでね。

○4番（渡邊康弘君）

新丸山ダムは、リニア・瑞浪恵那道路・新丸山ダム特別委員会で、先ほどから丸山ダム、丸山ダムと言っていますけれども、じゃあこの会議では丸山ダムに関しては何もやらないんですか。

○委員長（辻 正之君）

丸山ダムのほうは、例えばそちらのほうがもう少し勉強してみたいと、進捗状況を聞いてみたい

というふうであれば、そちらになるんですけれども、今回その道の駅というのがここに、諮問のほうに書いていましたので、そちらを取り上げたほうが良いんじゃないかということで、ちょっといろいろ考えた末、こういう方向で視察したらどうかということですね、

○4番（渡邊康弘君）

すみません、そういう考えは分かるんですけれども、リニアはこの3本の柱がある特別委員会がありますし、この2本をやっておしまいですよっていうのも、何か非常に寂しいことなのかなとも思いますし、前の委員長からの続けている中での八百津との、しっかりとやっていってほしいという思いがあったはずだと思うんですね。今日、市長の挨拶の中でも、工事が遅れてきますよという話がありましたね。結構大きなことであって、そういうことが起きているにもかかわらず、それを見向きもせずにこういうところへ、こういう視察へ行ってきました、というところって何かちょっと違うのかなと。

ちゃんとそういう、こういう動きがありますよ、こういうふうに変わってきますよ、工期も変わるし、工事も変わるしで、一気に変わると思うんですね、今回。それでそれを市議会議員さん、全然理解してないの、特別委員会の委員長さん理解してないの、大丈夫ってなっちゃうと思うんですよ。

なので、確かに議長諮問重いんですけれども、それはこういった今までもらった資料も、視察に行くというものにこだわらずに、行くべきなのは丸山のほうに行くべきだと思いますし、丸山ダムが変わってきているので、しっかりとその体制を持って推進していかないかん立場の委員会なので、八百津と協議を進めながら、いかに1年でも早く、その五月橋を通すか、工事を進めるかということと、うちは議会として話し合うべきところなんじゃないですか、委員会としては。

○委員長（辻 正之君）

小曾木委員。

○3番（小曾木光佐子君）

今、道の駅のことに対して諮問が出ているのでということで、勉強するのは良いと思うんですけれども、視察に行く必要はないと思います。

○委員長（辻 正之君）

勉強をする、どこか。

○3番（小曾木光佐子君）

見に行かなきゃ勉強できないということはないと思うので。この道の駅に関しては、今までの資料を見直してみても良いし、特に今、国交省がつくっているものに対して、どういうものが欲しいのかというようなことを、先ほども要望すると言われましたけれども、こっちの規模感もあるし、そこの辺のところをもうちょっと勉強してからやらないと、ちんぷんかんぷんなものを見に行くことになってしまうと思うので。

○委員長（辻 正之君）

非常にそのすみ分けがマニアックなので。

○3番（小曾木光佐子君）

うん、だから見に行かなくて良い。視察で。

○委員長（辻 正之君）

皆さんがそこを資料だけで議長諮問にお答えするような御意見がいただけるかどうかということなんですけれども。

○3番（小曾木光佐子君）

見に行って答えが出るとは思いますか。

○委員長（辻 正之君）

それなりに、やはり要望は出ると思うんですけれどもね。

○3番（小曾木光佐子君）

先ほどの資料を持っていたじゃないですか、道の駅のホームページからの。あれ見ても大体分かるんじゃないですか。今、授乳室はどこも当たり前ですけれども。

○委員長（辻 正之君）

一応書いてありますけれどもね、どういうふうなものかというのは、多分見ないと分からないものが。

○4番（渡邊康弘君）

本来これ視察に行く前にやるべきことは、国交省の管轄では国交省から出ているデータを全部出したら、こういうものがつくれます、こういうふうに、道の駅ではこういう基準です、・・・だったかな、そういうのをやれます、やっていきますよ、それで防災を基準にして・・・をしていきますと。それをするのが多分、所管される場所なんですけれども、それをしっかりと理解した上で、どういうことができるというのを理解してなければ、ここに行っても意味がないですし、それを完全に理解して、その話合いができるのであれば、わざわざとよはしではなくても、わざわざ視察に行かなくても、そこの中で協議は十分できると思うんですよ。

国からの情報を基に、必要であればその専門の担当課を呼んで話をするというのもできると思うので。あと担当課を通せば、ここに交通省ですかね、とか来てくれると思うので、そういうことをまずやってからじゃないと、視察行きたい、行っただけになってしまうと思うので。

○委員長（辻 正之君）

それが可能であればそういう方向で。

○3番（小曾木光佐子君）

それはそのように動くべきですよ、委員長。

○委員長（辻 正之君）

ただ、国交省というかそちらのレベルですので。

○3番（小曾木光佐子君）

いやいや、だから下の担当部署にお願いすれば良い話で。飛び越えて向こうに行くわけじゃないから。

○委員長（辻 正之君）

渡邊委員。

○4番（渡邊康弘君）

過去の経緯として、ちゃんと担当部署を通せば、国交省と言っても国直接じゃなくて、ここの管轄のところにちゃんとお話をしてくれるので。そういうところに挨拶とか。

○委員長（辻 正之君）

可能ですかね。

○3番（小木曾光佐子君）

可能じゃなくて。違う、委員長、しっかりしてください。

○委員長（辻 正之君）

まずそこが、相手のあることですので。

○3番（小木曾光佐子君）

どこもそうですよ。

○委員長（辻 正之君）

一応、確認はしますとは言えますけれども、

○3番（小木曾光佐子君）

委員長がどう覚悟を決めるかだけです。どうしても視察に行くんだというところを言い張るのか、今、渡邊委員が提案されたように、担当部課にどういうふうな形であつちに行くのかとか、国交省が出している今の形ってどんなものなのかというのを勉強したいと言えばそれでやれると思うし。それはまずは問いかけてみなきゃならないんじゃないですか。

○委員長（辻 正之君）

聞くことはできますけれども、まずそれを。

○事務局総務課長（加藤真由子君）

すみません、ちょっとよろしいですか。

○委員長（辻 正之君）

はい。

○事務局総務課長（加藤真由子君）

今、道の駅のことをちょっと調べてみましたけれども、今の状況では国交省はまだ予算も通っていないので、実際に何を付けるというのは全く決まっていない状況です。それで令和5年度につくられた基本計画に載っているものは、市が国と協議をしてつくったもので、それに沿って今は国も同調している状況です。それで6年、7年で行われる実施設計の中でも、今度は国と協議をしながら、実施設計の中に組み込んでいくこととなりますので、今の段階だとあまり要望を出せるタイミングではないということなんです。

○3番（小木曾光佐子君）

そういうことやね。見に行っても仕方がないということですね。

○6番（大久保京子君）

何か、委員長すごいこう、外へ視察へ行くことが何か仕事みたいなふうに思ってみえるように取られてしまうんですけれども。そうじゃない、今、課長がお話しされたように、まだ何も決まっていない状況という。

○委員長（辻 正之君）

決まってないので、まず議長のほうと話をした内容としては、一応そういうような方向で今、進めたいと。

○3番（小木曾光佐子君）

議長は反対のことを言ってますよ。

○委員長（辻 正之君）

その方向でも、別に良いんじゃないかという話はしておりますけれども。ということ話をしてみます。

○4番（渡邊康弘君）

そんな方向でって、議長はどんなように言われたか。議会の場でもう一度説明いただいて良いですか。

○委員長（辻 正之君）

議長のほうと話したのは、ここにある最初の道の駅の考え方ではなくて、要はこの瑞浪恵那道路と、瑞浪市が取り組む道の駅との接続部分のことについて、取り組んではどうかという話がありました。それでその中で、今回話をした、この道の駅とよはしですね、このところの例をちょっと説明して、こういうような施設があるので、ここを視察してそれに対して課題と要望と提案というの、皆さんに御意見をいただいたらどうかという話はしておいたので、それに対して良いんじゃないかというような話はしました。

○5番（榛葉利広君）

今、言われたことは、要するに議長が言われたことは、接続部分ということで、そうすると道の駅本体のことではないですよ。

○委員長（辻 正之君）

道の駅自体は関係ないです。あそのの。

○5番（榛葉利広君）

接続部分の道路がどういう構造になるとか、そういうことなら分かるけれども、これは道の駅本体の要望ですよ。これはちょっと考え直してもらったほうが良いと思う。

○委員長（辻 正之君）

それを取り上げるというのがちょっと難しいので。国交省がつくる部分も含めてという意味ですけれども。

○4番（渡邊康弘君）

接続部分って、例えば県道との接続地だったりとか、国道との接続部分、そういった部分のこと

を言われていると思うんです。それでこれって、恵那にできるかできないかで、上下のようになりたりとか、片側のようになったりとか、そういうものが変わってくるんですね。

そういった部分で、今の話だと恵那のほうも話が進んでいるのかな、というところで、そうすると大きく、県道とつなげる、国道でもつなげるなのか、県道に入ってからつなげるのか、そういうところに対して、瑞浪市として、瑞浪市のを勉強するというのであれば分かりますけれども、こういう施設を見に行つて、今の言われたところとは違うのかなと思うので。

接続部分ということと言われるんだつたら、国道とか県道との接続部という、どういった入り方をするとか、道路にするかとか、そういうところだと思うんですけども。

○委員長（辻 正之君）

非常にそこが、その課題とかそういうものが、皆さん見えられるというのは難しいんじゃないかなと。

○3番（小木曾光佐子君）

既に一番最初の道の駅の構想のときは、上下線だったんですよ。ところが恵那がつくるって言い始めて、下り線のほうに瑞浪ができる、上り線に恵那がつくると。だったら恵那の進捗状況も知ったほうが良いかもしれないし。

だから、今、皆さんがおっしゃっているのは、取りあえずこの視察というものは、一回白紙にしたほうが良いという御意見が多いと思うので、委員の意見を聞いていただけませんか。

○委員長（辻 正之君）

これ取りあえずそういうような御意見があるということで、先ほどに戻りますけれども、新丸山ダム、そちらのほうに工事が延びるといふようなことで、非常にその辺の問題が、進捗を調べてみたいといふようなことであれば、例えば従来のように新丸山ダムのほうの進捗状況の確認という方向で進めていくといふことで行けば、よろしいかなと思いますけれども。

○2番（棚町 潤君）

諮問に特別に書かれておるじゃない。諮問に特別に道の駅のこと書かれてますよね。

○委員長（辻 正之君）

議長はその辺は了解してもらえますと思います。

○4番（渡邊康弘君）

なので、いわゆるその接続部分とか、その道路の設置とか、恵那との関係性とか、そういうことに関しては、調査・研究、勉強されるというのは非常に大事だと思います。どこか見に行くといふ問題より、そこを解消していかないと、恵那とのといふ掛け合いと、その釜戸で県道・国道でどうつなげていくかといふところ、まだまだ計画段階でどこまで、情報が出てくるか分からないですけども、そういうのをしっかり理解するところの段階のほうに、この諮問の答えになってくるんじゃないかなとは思いますが。

○委員長（辻 正之君）

そちらのほうとのつながりといふものもあるとは思いますが、今回の、ありますよね、期成同

盟会の委員会がありますので一度、この委員の皆さんで参加しますので、またそういう場で議論ができると思いますので、お願いしたいと思いますが。

棚町委員。

○委員（棚町 潤君）

道の駅とよはしの件もですけれども、この上のリニアのことについても、委員長、去年はリニアの委員会ではなかったから。これ去年、令和5年の資料を見てもらうと、全部報告受けておる事業なんですけれども、これをまた同じようにやられるということですか。

○委員長（辻 正之君）

1年たっておるものですから、それで大分進捗の内容が変わってきているということを連絡、話を聞いていたんですけれども。

○委員（棚町 潤君）

どこから。

○委員長（辻 正之君）

企画のほうから。

○委員（棚町 潤君）

そんな変わっているんですか。

○委員長（辻 正之君）

それでこれが完成するのが、27年ですか、に瑞浪の区間は開通すると。それで出来上がってもうそれで終わりですので、それで進捗のほうは大分進んできているということで、そこの説明を聞いたほうが良いというふうに。

○3番（小木曾光佐子君）

これはJRに来てもらって説明を聞くということ。

○委員長（辻 正之君）

そうです。それでこれを調整してもらったら、ちょっと7月でないと資料を作るのが大変だということ、7月になります。

○6番（大久保京子君）

じゃあこっちはそこまで進んでいるということですね。

○委員長（辻 正之君）

はい。それでこちらのとよはしについては、御意見がありましたので、新丸山ダム事業の、今度7年度に延びていくということですので、その進捗状況の説明を受けるということで、よろしいですか。

○3番（小木曾光佐子君）

そうしたら、先ほど渡邊委員も言いましたけれども、恵那市は八百津町との連絡会やってるわけですよ。だから瑞浪もそれをやってはどうかというのを、前から話があるんですけども、なかなか進んでいかないので、できないでも良いので、取りあえずそういう話しかけを八百津町にしても

らえると良いのかなとは思いますが、ぜひお願いします。

○委員長（辻 正之君）

そうですね、そういうのをお願いして、話しかけをしていきたいと思いますが、ちょっとその辺は検討させてください。

ではそういうような結果で良いですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

では、取りあえず活動予定としては、今、言われたような方向で、8月中というのは修正しまして、こちらの新丸山ダム事業のほうに切り替えたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○3番（小木曾光佐子君）

議長諮問に対しては答えなきゃいけないので、そのところの勉強の仕方を、ちょっとまた考えてもらわなきゃいけない。なしにするわけにいかないの。ただ視察は駄目って言うだけよ、私たちは。恵那道路のことやらなくて良いと言ってるわけではなくて。

○委員長（辻 正之君）

そちらのほうも、時間の許す限り、進めていきたいと思います。

○4番（渡邊康弘君）

なので、先ほど言われたように、今度、恵那との委員会もありますので、そういったものを経た上で、いわゆる接続部、諮問に該当してくる部分に対して、どういったことができるのかとかいうことを踏まえて、また委員会で、その時点からでも良いと思うんですよ。何かやりたいじゃなくて、何を協議できる点があるかとかのレベルからでも良いと思うので、協議されたら、これをやられたらどうですか。

○委員長（辻 正之君）

一度その辺は、いろいろと調べまשיていきたいと思います。

活動内容としては、まず一つ目の7月中に行うリニア残土処分場についての進捗状況というのは、一つ取り組みますので、よろしくお願いします。

それから8月中を、新丸山ダム事業について、進捗のほうを確認しに、視察に行きたいと思しますので、よろしくお願いします。

その後、まだこの道の駅の課題がありますので、それを委員会で協議して精査したいと思しますので、また各自、過去の道の駅の勉強会に行った内容を、また勉強しておいていただきたいと思します。

ということでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

ではそういうことで、ほかに質疑もないようですので、質疑を終結します。

それでは、令和6年のリニア・瑞浪恵那道路・新丸山ダム特別委員会での委員会活動については、活動計画を2に沿って進めていきたいと思しますので、よろしく願いいたします。

○委員長（辻 正之君）

次に、2 その他の議題は特にありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（辻 正之君）

ほかに発言もないようですので、以上をもちまして、令和6年第3回リニア・瑞浪恵那道路・新丸山ダム特別委員会を閉会いたします。

本日はありがとうございました。

午後4時18分 閉会